

人が泣いています。人が笑っています。人と人が出会い、人と人が恋をし、結婚、子どもが生まれ、育ち、ふたたび新しいドラマが始まってゆく。結婚式は、そんな「物語のはじまり」をつくっている、と思っています。ここでひとつ、私の心に残った物語を話させてください。

とても厳しいお母さまのもとで育った新郎さまがいらっしやいました。挙式までの打ち合わせの時も「僕の母は厳しいから」と事あるごとに口にされていた。披露宴もお開きに近づき、両家を代表して新郎が謝辞を述べられるのですが、なぜかお母さまの前に立たれたのです。そして話をはじめられました。これは台本にはなかった突然のできごとでした。「幼い頃から厳しくて、僕には仲良く家族と遊んだ思い出がありませんでした。友だちのような楽しい思い出がなく、寂しかったんです。僕は今、お母さんと同じ美容師の道を選び、知ることができました。体力的に大変な仕事をしながら、僕を育ててくれたんだと気づいたのです。家庭をないがしろにしていたのではなく

て、家族のために頑張ってくれたんだと、同じ仕事をして初めて知ることができました。もっと早く気づけばよかったのですが、今まで僕を育ててくれて本当にありがとうございます。お母さんが元気なうちに早く孫を抱かせたいです」。伝え終ったあと、会場は涙と優しい笑顔で溢れていました。

参列された全員からの歓声と鳴り止まない拍手。それを間近で感じ、自分は本当に良い職業に就いたと、心から感じられました。お二人はもちろん、会場にお越しの皆様喜びに接することができ、それも嘘のない正直な気持ちを見ることができるとしてじつはなかなか無いのではないのでしょうか。(ご紹介しました新郎は、口べたで表情も豊かではない不器用な方でしたからなおさら驚きました) ウェディングプランナーは人間に訴えていく仕事ですが、チェックリストを消して行くような打ち合わせではなく、二人のために私の想像力が入る部分を大切にしたいと思っています。そんな想いで深夜から始まるプランナー会議や、生番組

のような式場での緊張感を抱え、自分を鼓舞しながら16年間、ベンチャー企業で学べたことはとてもプラスになりました。高山は稀に見る町です。そう思うのはそこに住む人たちの郷土愛がどこよりも強いからです。私はいま、そのような町で高校時代までを過ごしたことを本当に良かったと思っています。

私の実家は133年にわたり、上三之町で「西さか田」という呉服業の商いをさせてもらっていますが、夫や子どもと相談し、この町とご縁を求め、帰郷しました。そして歴史のある町ならではの普遍的な美しさを大切にしたいと「心に残る和の結婚式」をご提案させていただきました。日枝神社や護国神社の神様の前で結ぶ誓い。奏でられる雅楽の生演奏。由緒ある料亭での披露宴など、古き良きものに包まれる結婚式は、この町でしか味わうことができない贅沢です。幸せの節目にお二人の気持ちがこめられる、そんな結婚式のお手伝いをさせていただきます。ただそれだけだと思います。



結婚式は固くて縮こまっている気持ちを
やわらかく、素直にしてくれる。
そんな魔法があるような気がします。